

第1学年〇組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者

1 単元 「衣服の選択と手入れ」

2 指導観

近年、衣生活においては、科学技術の進歩に伴い繊維素材や既製服のデザイン等も豊富となり、インターネット等でも手軽に入手しやすい状況になった。また、衣類専門誌など衣服に関する情報が氾濫し、誰もが身に付けるものへのこだわりを持ち始め、衣服の流行にも敏感になっている。しかし、衣服を選択する際は、見た目や価格が中心であり衣服素材に目を向けることは少なく、衣服の社会的役割を意識することや自分の個性を自覚することなく着用してしまうことも多々ある。また、裾上げなどの簡単な補修も専門の業者に委託し家庭でしないことが増えてきており、生徒は日常生活での補修などの体験が乏しくなっている。そこで、今、必要に応じた購入の仕方、物を大切にしている着用の工夫、手入れや補修に必要な基礎的な知識や技術を身につけさせることが求められている。

本題材で、日常着の選択と手入れに関する基礎的な知識や技能を身につけ、自らの衣生活をよりよくしようとする態度(知識的側面)(価値的・態度的側面)(技能的側面)を養うことをねらいとしている。

生徒は、小学校でエプロン作り、ナップサック作りなどの学習をしてきている。しかし、「衣服の手入れと補修」に関する事前調査を行ったところ、ボタンつけを自分ですると答えた生徒は9%、体操服のゼッケンつけは7%、名札つけは14%とほとんどの生徒が家庭内の自分以外の人にやってもらっていることが分かる。また、学期の初めに提出させた雑巾に至っては、自分で縫うと答えた生徒が2%、家庭内の自分以外の人を作ってくれるという生徒が9%、89%の生徒は購入していると答えている。このようなことから、簡単な基礎縫い程度のことで家庭での体験が乏しいことが分かる。

共働きの家庭が多く、裾がとれていることに気付いてもすぐに補修をしない生徒が多い。生徒自身が補修をしないといけないと感じていてもやり方が分からないということも要因の一つと思われる。

指導にあたっては、自分の衣生活に感心をもたせ、自分らしい衣服の着方やTPOに応じた選択、衣服素材である繊維の性質、適切な補修や手入れ、基礎縫いを使った小物作りの学習に取り組みさせていく。また、名札つけや裾上げなど自らできることを考えながら衣生活の問題解決に向けて取り組ませていきたい。そこでまず、衣生活自立度チェックを行い、衣生活について自らがどれだけかわっているのか実態をとらえさせる。その際、衣服のあたえる印象について考えさせ、既製服を購入するときの要点を学ばせたい。次に、衣服の手入れと補修について理解させる。衣服の素材である繊維の性質や汚れの程度に適した手入れの方法、洗濯の仕方を実習する。ここでは、洗濯の実習を課題としたレポートの提出や話し合いを行うことで、他の人と対等で豊かな関係を築ける技能(技能的側面)を身につけさせ、家庭生活での実践につなげる。さらに、基礎縫いを使ったティッシュカバー作りを行い、自己評価をして補修に必要な基本的な縫い方の定着をはかり、自己自身の行為の責任感(価値的・態度的側面)(技能的側面)を身につけさせたい。最後に、今までの学習を振り返らせ、自分にできることを考えさせることで今後のよりよい衣生活につなげていきたい。

3 目標

生活や技術への関心・意欲・態度

- ・ 衣服の選択、着用、手入れに関心を持ち、意欲的に学習活動に取り組みよりよい衣生活を営もうとする。

生活の技能

- ・ 衣服の材料である繊維の性質や汚れの程度に適した手入れができる。
- ・ 基本的な縫い方(玉どめ・玉結び・なみ縫い・返し縫い・スナップ付け・ボタン付け)ができる。

生活や技術についての知識・理解

- ・ 衣服の着用、手入れについて説明することができる。

人権の目標(価値的・態度的側面)

- ・ 近くの生徒の縫い方をみて、他者の価値を感知し、自分の意見を伝えることができる。
- ・ 自己評価をして、自己を肯定的に据えようとする、意欲・態度をもつことができる。

人権の目標(技能的側面)

- ・ 日常着に応じた適切な手入れをしたり、補修したりして、清潔で快適な衣生活を送り、他の人と対等で豊かな関係を築くことができる。
- ・ 基礎的な技能を身に付け、自立した衣生活を送ることができる。

4 指導計画(全8時間)

第1次	衣服のはたらき	2時間
第2次	日常着の適切な選択	1時間
第3次	衣服の手入れと補修	1時間
第4次	手縫いの基本を使ったティッシュカバー作り	3時間
第5次	衣服の計画と再利用	1時間

本時 2 / 3

5 本 時 平成20年9月25日(木) 第5校時
計画第4次6 / 8 1年〇組教室にて

(1) 本時の指導観

前時までには生徒たちは、衣服の手入れと補修について学習をしてきた。その中で、基礎縫いに関して、なみ縫い、返し縫いなど端布を使って身につけてきた。しかし、返し縫いの技能が身につけていない生徒もみられる。

そこで本時では、今まで身につけてきた技術である「基礎縫い」を生かして、ティッシュカバー作りをすすめていく。まず、手順表を活用し、説明を行い、次に、本縫いへと入る。スナップ付けが一つ終わった時点で、周りの生徒と比較させ、できる生徒はできない生徒に教え合いどのような点がすぐれているのか話し合いを行い、自分の縫い方にも取り入れていく。さらに、縫い方がわからない生徒に対しては実際に自分で縫うことができるような援助を行う。そして最後に、自己評価表をもとに基礎縫いがどれだけ自分の身に付いているのか確認させ、次時につなげていきたい。

(2) 主 眼

生活の技能

- ・ ティッシュカバー作りを通して、スナップ付け、ボタン付けの技能を定着させる。

人権の目標(価値的・態度的側面)

- ・ 近くの生徒の縫い方をみて、他社の価値を感知し、自分の意見を伝えることができる。
- ・ 自己評価をして、自己を肯定的に捉えようとする、意欲・態度をもつことができる。

(3) 準 備

生地 縫い針 まち針 糸 糸通し 糸切りばさみ しつけ糸
掲示用模造紙 段階見本 マグネット(ねらい・まとめ・ポイント)

(4) 展 開

学習活動・内容	資料 教具	教師の支援	評 価 (評価の方法)	配時
<p>1 前時の学習内容の振り返りをする</p> <p>2 本時のめあてを確認する 「スナップ付け，ボタン付けのレベルをたかめよう」</p>	<p>診断表</p>	<p>前時の学習で布の基礎縫い練習を行い，自己評価表，作品チェック表から個別指導が必要な生徒を把握しておく。</p>		<p>3</p> <p>2</p>
<p>3 作り方の確認をする ・スナップ付け ・ボタン付け</p>	<p>手順表</p>	<p>自己評価表を使って，前時までの自分の技能を確認させ，より高い技能を身につけさせる。 手順の理解を助けるために，前黑板に段階見本をおき，よりわかりやすくする。</p>	<p>生活の技能 スナップ付け，ボタン付けの技能を定着させる。 様相チェック</p>	<p>10</p> <p>30</p>
<p>4 本縫いをする</p> <div data-bbox="180 1043 483 1290" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>スナップを一つ付け終わった時点で，周りの生徒と見せ合い，どのような点がすぐれているのか話し合う</p> </div>		<div data-bbox="652 1043 1003 1162" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>すぐれている所を，わかりやすく指摘する。</p> </div> <p>作業途中でも，仕方がわからなくなった生徒のために，縫い方の見本をおき自分で確認ができるようにする。</p> <div data-bbox="652 1469 1003 1610" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>近くの生徒での教え合いができるように声かけをする。</p> </div>	<div data-bbox="1046 1003 1310 1395" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>価値的・態度的側面 近くの生徒の縫い方をみて，他社の価値を感知し，自分の意見を伝えることができる。 様相チェック</p> </div>	<p>5</p>
<p>5 本時のまとめを行う ・自己評価をする ・次時の予告を聞く</p>	<p>自己評価表</p>	<p>自分の作品を確認し，次の作業への技能向上への意欲づけになるように自己評価をする。</p>	<div data-bbox="1046 1630 1310 2022" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>価値的・態度的側面 自己評価をして，自己を肯定的に捉えようとする，意欲・態度をもつことができる。 プリント分析</p> </div>	